

## 令和6年度共栄大学 卒業式 学長式辞

卒業生のみなさん、共栄大学ご卒業、誠におめでとうございます。共栄大学の教職員と在学学生を代表して、心からお祝いを申し上げます。この卒業の日まで、皆さんの勉学を支え、励ましてこられたご家族やご支援を頂きましたみなさまもさぞやお喜びのことと思います。心から感謝とお祝いを申し上げます。

思い起こせば、2021年、みなさんが共栄大学に入学された年は、世界中がかつてない困難に直面していた時期でした。新型コロナウイルス感染症の影響で、授業のオンライン化、キャンパスでの活動制限など、従来の大学生活とは大きく異なる環境で、みなさんは不安をもって学びをスタートさせたことと思います。

しかし、そのような困難の中でも、みなさんは学びを止めることなく、仲間と支え合いながら知識を深め、多くの困難を乗り越えてきました。

私たち大学の属する学校法人共栄学園の建学の理念に「至誠一貫」があります。これは、どんな時でも、どんな状況の変化の中でも、至高の誠実さである「至誠の精神」をもって、明るく、前向きにあらゆることを乗り越えていくことであり、困難な時や試練の時こそ、自らの価値観と信念を見つめ直し、精神的な強さと決意を示すこととされています。

新型コロナウイルスによる試練の日々も、前向きにとらえれば、「至誠の精神」を体得した貴重な経験だったのかもしれませんが。そして私たちは、困難を乗り越え、場所や時間にとらわれない、オンラインでの学習法をつくり、みんなで活用し、自らの環境への適応性の高さを体感しました。「至誠の精神」は、正直さ、誠実さ、そして他者への思いやりに基づいています。みなさんが、この四年間でつちかった「至誠の精神」、すなわち、学び、友情、そして困難を乗り越える力は、これからの人生において何よりも大きな財産となることでしょう。

今、社会は急速に変化しています。未来を予測することはますます難しくなっています。目を閉じて、みなさんのこれからの人生となる西暦2100年までの75年間にこの日本に何が起こるか想像してみてください。

西暦2100年の日本の人口は今の1億2千万人から6千万人以下に減少し、気候変動は後戻り出来ない状態になっているかもしれません。日本経済は縮小し、国際競争力が低下し、世界の国々の民主主義は独裁主義にとって代わられているかもしれません。私たちが当たり前だと思っていたことが、災害、疫病、戦争などによって、突如、当たり前なことではなくなることもあるでしょう。西暦2100年に至るまでは、このような深刻な課題がある一方で、AI・医療・エネルギー・宇宙開発・

教育の進化による大きなチャンスも存在しています。

このような世の中で、みなさんはどのような行動をとっていけば良いのでしょうか。本日は、この変化の激しい世の中で必要な、私が考える 3 つの行動についてご紹介させていただきます。私の考えではありますが、耳を傾けていただけると嬉しく思います。

一つ目は「変化や多様性の理解」です。自分の思い込みを手放し、変化や多様性をいったん受け入れることです。変化や多様性を柔軟に受け入れるためには、「こうすべき、こうであるはず」という思い込みが邪魔をすることが良くあります。自分の思い込みにこだわり、それに合致しない世の中の環境や相手が悪いのだと、すべて世の中の環境や相手の責任にしてしまうのです。しかし、大切なことは、世の中の環境や相手の意見、さらには周囲からのフィードバックをスポンジのようにいったん吸収し、理解しようとすることです。自分の思い込みにとらわれずに、誠意をもって、相手を尊重しながら話を聞き、好奇心をもって情報を取り入れると、新たなことや気づかなかったことを理解する力が高まり、視野が広がります。思い込みは時としてみなさんの大切な信念につながりますが、自らの信念を見つめ直すことも、社会の急速な変化に順応するためには大事なことだと思います。

二つ目は「変化や多様性のどの部分を自分に取り入れるかの判断」です。なんでも無条件に受け入れてしまうだけのイエスマンではなく、大切なのはいったん受け入れた変化や多様性の理解を、自分で実践してみて、自分に取り入れるべきものを判断することなのです。こんな言葉があります。「新しい職場に入ったなら、頼まれたことは、何でも断らずに進んでやりなさい。そうすることで、ものごとを判断するために必要な経験と人脈を手に入れることができる」と、これは、私の尊敬する上司がよく言っていた言葉です。いったん頭で理解したことを自分自身に取り込むのか、捨てるのかを判断するためには、全て自分の直観だけに頼るのは難しく、やはり、自分自身の経験や周りの人からの助言が必要だと思います。みなさんが社会に出たら、自分が好む、好まないに関わらずいろいろな仕事の依頼が入ってきます。いったんすべての依頼を受け入れて、真摯に実践することで、多くの経験と人とのつながり、そして信頼関係が生まれ、きっとあなたが大切な決断をするときにその経験や人脈が助けてくれるでしょう。

三つ目は「変化や多様性を活かし、創造する力を養うこと」です。変化の激しい世の中で活躍できる人材は、自ら考え、行動し、未来をつくれる人です。先ほども触れましたように、私たちの未来には AI・医療・エネルギー・宇宙開発・教育の進化による大きなチャンスが存在しています。テクノロジーや AI の進化により、「定型業務」「データ分析」「単純な判断業務」などは AI の方が人間よりもはるかに早く、正確に処理することができ、人間の仕事は AI に置き換わっていきます。シンギュ

ラリティとは、AIが人間の知能を超える転換点のことを指します。一般的に、2045年頃に到来する可能性があると予測されており、この時点を境に、AIが機械学習などによって、自己改善を繰り返し、爆発的な進化を遂げることで、人間の知的労働や社会構造にも大きな変化が起こればと考えられています。そのような環境の変化の中でも、創造性や共感が求められる仕事は人間がになうべき領域として残ると言われています。みなさんはAIを使う人になるのか、それともAIに使われる人になるのか、どちらになりたいでしょうか。AIを活用できる人材は、テクノロジーの動向やAIと人間との違いや共生を理解し、それを活かして価値を生み出せるスキルを持っています。すなわち、変化や多様性を活かし、創造する力を持っている人なのです。

本日はみなさんに、変化の激しい世の中で必要な3つの行動についてお話しさせていただきました。一つ目は「変化や多様性の理解」、二つ目は「変化や多様性のどの部分を自分に取り入れるかの判断」、三つ目は「変化や多様性を活かし、創造する力を養うこと」でした。

むすびに、みなさんには、共栄大学を卒業した後は、大学で学んだ他者への思いやりと至誠の精神を保ち、社会の変化や多様性を柔軟に受け入れ、自ら考え、行動し、未来を創造し、ご自身の成長や社会への貢献を実現することを期待しております。みなさんがこれから歩む道が希望に満ち、充実したものであることを心より願っております。共栄大学は、いつまでもみなさんの母校であり続けます。困ったとき、迷ったときは、ぜひまたキャンパスに足を運んでください。

みなさんの未来に幸多きことを祈念し、以上で私からの式辞とさせていただきます。本日は、ご卒業、誠におめでとうございました。